

和光



発行 〒894-0007 鹿児島県奄美市名瀬和光町1700番地

国立療養所 奄美和光園

電話(0997)52-6311 FAX(0997)53-6230

令和元年9月1日
(2019)

第114号

■表紙	1
■バスレクリエーションに参加して	2
■第5回 ミニ運動会	3
■第27回奄美和光園夏祭りに参加して	3～4
■舟漕ぎ競争に参加して	5
■八月踊り	6
■ハンセン病問題を正しく理解する週間・七夕会	7

■ふれあい和光塾	8
■「令和元年度奄美和光園親子療養所訪問」を終えて	8～9
■ふれあい看護体験	10
■福祉体験学習・新人紹介	11～12
■令和元年度第1回消防訓練・学術活動	13～14
■2年連続 準優勝!!・捕ったぞ	15
■あまみ鰻遊記・NST News Letter	16～17
■令和元年度診療統計	18
■人事異動・和光園日誌・編集後記	18

基本理念

私たちは、入所者一人ひとりの生命の尊厳と人権を守り、豊かな自然環境につつまれた穏やかで心豊かな療養生活と、安全で安心できる医療を提供します。



大浜海岸にて撮影

基本方針

1. 入所者の終の棲家として心穏やかな暮らしを支えることを基本とします
2. 入所者自治会とよく話し合い 入所者本位の運営に努めます
3. 入所者一人ひとりの日々の変化にきめ細かく対応いたします
4. ハンセン病による後遺症や合併症の対策をしっかりと行います
5. 入所者が高齢化していることを念頭に置き 健康保持の活動や生活を支える医療さらには感染予防・認知症対策に重点を置きます
6. 地域医療とも連携し 適切で標準的な医療の提供に努めます
7. ハンセン病に対する正しい知識を普及させるため 啓発活動に努めます
8. 開かれた療養所となることを目的に地域社会との交流促進に努めます
9. 入所者の健康と安全な生活に貢献できるようすべての職員の質の向上に努めます

「記憶をたどる旅」 バスレクリエーションに参加して

梅雨明けが遅れていた7月9日、令和初のバスレクリエーションが、大浜海浜公園にて実施されました。

今回は、入所者5名、職員10名での小旅行。バスで園を出発し、途中お昼ご飯を調達して、午前10時過ぎに目的地である大浜海浜公園に到着しました。

貝殻ステージ前のガジュマルの木陰にテーブルと椅子を広げ「ベースキャンプ」を設置すると、早速自由時間となりました。SさんとYさんは、職員と連れ立って小浜キャンプ場に向かうも、途中の道路が悪路であったため見学を断念。しかし、その後は新しく出来たレストランの2Fバルコニーから、東シナ海の絶景を望むことが出来てご満悦でした。

唯一の男性参加者となったTさんは「実は昔、大浜で建築の仕事をやってたんだよ。あの時作った建物は残ってるかなあ？」とおっしゃって、職員をお供に従え当時の記憶をたどって建設現場まで向かいました。あいにく建物は残っていませんでしたが、現場から見える海岸の様子や水平線に浮かぶ横当島などの景色は当時と変わらず、Tさんは感慨深げに、その景色を堪能されていました。

KさんとHさんは、昼食を済まされた後に海洋展示館を見学。カメを見たり、サンゴを見たり、美味しいアイスを味わったり、充実した時間を過ごされました。

昼過ぎに突然のスコールに見舞われ、予定時間より早くベースキャンプを撤収することになったのですが、そのまま帰るのも味気ないということで、急遽、下方地区をぐるっと一周して園に帰ることとなりました。

根瀬部では「日本一小さい教会」として紹介されたこともある「根瀬部教会」を車窓から見学しました。知名瀬から里に抜けるトンネルを通った時は、初めての方もいらっしゃって「トンネル通れば近いねえ」という声があがりました。長浜町に入り、観光船バースから湾岸道路を通過して山羊島に抜けるコースでバスが進むと、埋め立てにより姿を変えていく名瀬の町を眺めながら「このあたりに闘牛場があったよね」といった昔話に花が咲きました。そうこうしているうちに、バスは無事に園に到着しました。

長いようで短かったバスレクリエーション。突然の雨のおかげで想定外の観光もでき、充実したレクリエーションだったように感じました。

また、毎年3回実施するバスレクリエーションは、これからも入所者の皆様の「記憶をたどる旅」として実施されるのだろうなあと感じ、次回もぜひ参加したいと感じました。

参加された皆様、本当にお疲れ様でした。また一緒に楽しい時間を過ごさせてくださいね。

福祉室 MSW 保 裕之





第5回 ミニ運動会



第5回ミニ運動会が6月27日午前10時よりあすなろホールにて開催されました。

今年度は入所者のみなさんが気楽に参加していただけるよう競技内容を減らし、午前中で終了するように看護サービス委員会で計画させていただきました。

加納園長からの開会あいさつの後、保育園児全員による選手宣誓と歌に、入所者の皆さんや職員から「かわいい！」の声が飛びかう中で開幕しました。みんなで“たけのこ体操”をして、園児のパン食い競争、入所者の宝釣り、園児の宝釣りを行いました。入所者の宝釣りでは、実習に来ていた奄美看護福祉専門学校の学生さんにも一緒に参加していただき、ありがとうございました。真剣に競技に取り組みられ、一人ひとり宝物を釣り上げることが出来ました。最後に和光園歌をみんなで合唱し、島のブルースを輪になって踊り、馬場副園長の閉会のあいさつで幕を閉じました。

かわいい園児を見て楽しみ、身体を動かして楽しみ、たくさんの笑顔をもらい運動会を無事終わることができました。入所者・園児・職員が同じ時間を過ごせたことは、とても楽しい思い出の一つになったと思います。

運動会に参加していただいた方々をはじめ、準備や片づけに協力していただいた職員の皆様に心から感謝申し上げます。

不自由者棟

サービス委員 山本 農



第27回 奄美和光園夏祭りに参加して

元号が平成から令和に変わって最初の年の奄美和光園夏祭りが、令和元年7月25日(木) 17時30分から園内講堂、ゲートボール会場で開催されました。

祭り前日までに夜店のテントや看板等の設置を済ませ、当日は夜店で販売する焼鳥の準備をお昼頃から始めました。焼鳥は、実際に網を使って炭火で焼くのですが、量が多いうえに、焼く場所は屋外でただでさえ暑いうえに、炭火の熱も加わって、じっとしていても汗が噴き出し、炭火の煙に巻かれる状況の中、合間で焼き立ての焼鳥を

頬張りながら夕方近くまで頑張って予定数量を焼き上げました。

次に、臨時駐車場に行き車の誘導を行いました。1時間も経つ頃には駐車場は車でいっぱいになりました。夏祭りの会場は、さぞかしお客さんで賑わっていることだろうと思い会場へと移動すると夜店には食べ物や飲み物を買って求めるお客さんで賑わっており、講堂内も入所者の方や来賓の方々、ステージの見物客などでこちらも盛況でした。

暑い中ではありましたが、天候にも恵

まれ、加納園長、来賓を代表して奄美市長の挨拶で始まった夏祭りは横山事務長の閉会挨拶で予定通り無事終了することが出来ました。これもひとえに、夏祭り開催に向けて準備に携わった大勢の職員の協力の賜物と思います。参加された職員の方々、お

疲れさまでした。

そして、夏祭りに来てくださった来賓や見物客の皆様、どうもありがとうございます。

事務長補佐 立川 秀一



舟漕ぎ競争に参加して

今年も奄美祭りの恒例イベントである舟漕ぎ競争が8月3日に開催されました。4月に赴任して来たため初めての参加となりましたが、過酷さもありつつ、非常に充実した体験をさせていただきました。

7月5日の結団式(飲み会)に始まり、約1か月の練習期間となりました。業務の都合もあり、初めの方は平日の練習に参加できませんでしたが、一度練習に参加すると、あまりの過酷さに練習しないとみんなに追いつけないと思い、その後はほぼ毎日練習に参加させていただきました。練習では、初め漕ぎ方もわからず、ただ何となく漕いでいるだけという状態でした。先輩方に時には厳しく指導してもらいながら、徐々に漕ぎ方のコツがわかっていきました。また、普段あまり話す機会のない他部署の職員の方との交流もでき、大変充実した時間を過ごすことができました。

舟漕ぎ競争当日は、男性一般の部139チーム、女性・子供の部50チームが参加し、予選は5チームずつで行われ、各チーム日頃の練習の成果を激しく競い合いました。和光園は、男性・女性とも2チームずつ参加し、予選突破を目指していました。ただし、組み合わせの妙なのか、女性チームは予選で同組になるという不運もありました。結果からいくと、男性は和光園Aチーム、女性は和光園Bチームの1チームずつ、見事予選突破を果たすことができました。私は和光園Bチームで出場しましたが、3位という結果でした。

男性のAチームは、予選のスタートが8時50分頃にもかかわらず、予選突破を果たし、幸先の良いスタートを切ってくれました。次に男性Bチーム。こちらは3位と予選突破とはならず、チームワークを磨けば、来年に期待が持てる結果だったと思います。午後からの女性チームは、同組だったこともあり、Bチームが予選突破となり、Aチームは結果としては振るわなかったものの完走できました。その後の男性準々決勝、女性準決勝は、ともに突破はできませんでしたが、全チーム練習の成果を思う存分発揮することができたと思います。

大会当日は、時折雨が降ったりしたものの比較的天候がよく、過ごしやすかったと思います。テントの配置も海側で見やすく、

職員による多彩な手料理を食べながらの入所者との応援など大変楽しい雰囲気でした。手料理を差し入れてくださったメンバーには感謝です。

奄美に来て、何か海に関連することをやりたいと思っていた私にとって、舟漕ぎとの出会いは大変興味深いものとなりました。練習は大変でしたが、舟漕ぎ競争に出場して改めて練習がいかに大切であるか、そして漕ぎ手の一体感の重要さを思い知らされました。ここで得た経験を忘れず、来年も参加できたらと思います。他部署の方との交流もでき、非常に充実した時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

庶務係長 綾部 純一





毎年恒例の八月踊りが時折霧雨降る夏空の下、有屋町町内会の皆さんにより催されました。

大型バス 1 台、ミニバン 1 台、軽トラ 1 台の船団で御来園、手際よく不自由者棟前で準備を整えると、さあ午後 5 時スタートです。

三味線や太鼓（チヂンというのだそうです）を奏で、唄を唄いながらの踊りに只々只々感動。てっきり録音されたものを使うとばかり思い込んでいた私は、自らの不明に恥じ入るばかり。

老若男女の有屋町の皆さんの踊りの中に、いつの間にか入所者さん、当園職員（含、加納園長）が一つになって、ある人は笑顔で、ある人は誇らしげにそして生き生きと踊っている。言葉が無くとも喜びが伝わってくる、そんなひと時でした。

踊り全 4 曲の間に、加納園長の挨拶や寄付に対する謝礼も見事に織り込んでちょう

ど 20 分という見事な運営には恐れ入りました。

前日 8 件 5 時間 20 分、そしてこの日は和光園にはじまり 10 件 6 時間 30 分。来園のご厚意とそのエネルギーに心よりの感謝と敬意を払い、渡された豆絞りを、船団の姿が見えなくなるまで振り続けました。本当にありがとうございました。

あれ？バスの中に園長の姿が…。



福祉室 医事係長 津下 徹



ハンセン病問題を正しく理解する週間

鹿児島県では厚生労働省が「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」として定めた日（6月22日）を含む日曜日からの1週間を「ハンセン病を正しく理解する週間」として定めています。今年の期間は6月16日から6月22日までとなっており、その期間に奄美市役所・奄美市立図書館においてパネル展示の企画がありました。

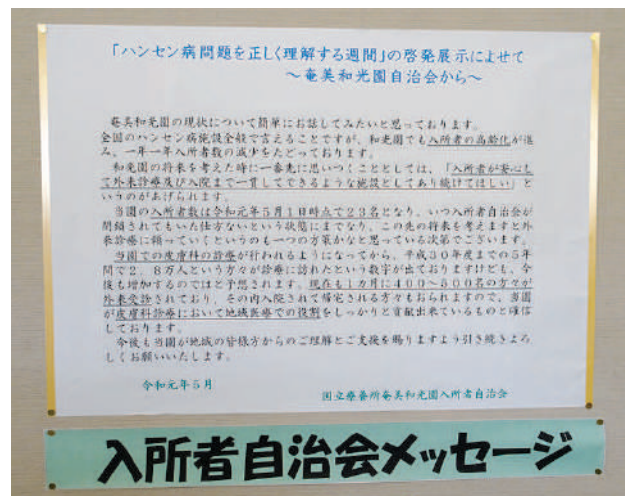
パネルは、奄美和光園の歴史と現状、入所者自治会からのメッセージ、県内の

ハンセン病療養所の状況といったものが展示されました。

今年は、鹿児島県の担当者よりこれまでよりも多くの方が来場されたということを知っており、皆様の関心が高まっていることを感じております。

今後ともハンセン病についての正しいご理解をよろしくお願いしたいと思っております。

福祉室長 上脇田 勝教



七夕会



8月2日～8月16日の期間中、各部署で作った七夕の笹飾りが中央廊下を彩りました。

今回の七夕会は8月2日～8月8日までの一週間、投票期間を設けさせてもらいました。今までとは違い投票期間を延ばした事と、入所者の皆さんだけでなく、職員も投票する事が出来るようになった事でどうなるか気を揉みましたが、入所者の皆さんや職員が七夕に何度も投票する姿を見かけ、楽しんでいる様で安心しました。給食から提供された七夕ゼリーは青で統一されており、見る人に“涼”を感じさせてくれました。

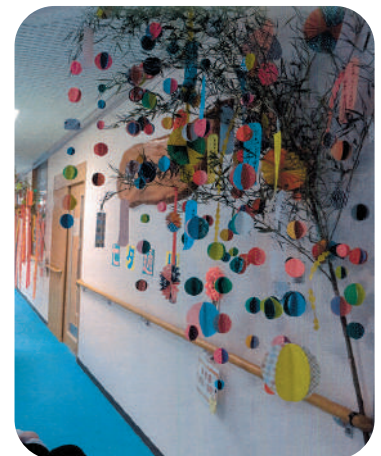
投票結果1位不自由者棟（入所者指示トップです！）、2位庶務・会計（〇で統一し、凝った作りが良し）、3

位が給食・リハビリ（タピオカ美味いよね）でした。どこの七夕も味があり、通る度に入所者の皆さんや職員、来園者から「キレイだね」等の感動の言葉を聞きました。

各部署の皆様、ご協力して頂き有難うございました。来年も七夕で夏を感じましょう。

不自由者棟 介護員

サービス委員 小松 呉穂





ふれあい和光塾



梅雨に入り雨が心配されましたが、大変良い天気にも恵まれた令和元年 5 月 25 日、ふれあい和光塾の開講式が開催されました。

ふれあい和光塾とは、ハンセン病への理解や入所者との交流を目的に、奄美和光園と奄美市が園内の畑の一部について無償貸し付けの覚書を交わし、奄美市が登録した家族にそれぞれ区間を割り当てて、その家族が畑を使用するものです。畑は 1 年ごとに更新しますが、最長 3 年間同じ畑を使用することができます。2004 年から開始され今年度は 16 年目となりました。今年度は新規 9 組を含む 26 組 94 人が登録しました。

式では、まず奄美市教育委員会生涯学習課長より「年齢を問わず生産活動を通じて園の方々と交流を深めてほしい」といった内容のあいさつがありました。次に加納園長より「ふれあい和光塾は園にとって最も重要な事業のひとつである。目的としては

大きく 2 つあり、療養所を開放して地域の方々に利用してもらうこと、色々な方々に療養所に入ってきてもらって入所者の方々とふれあってもらうことである。」といったふれあい和光塾の重要性について触れたあいさつがありました。その後、参加する家族のそれぞれの自己紹介、注意事項等の説明があり終了しました。

開講式の後には、畑の作業となり、みなさん一生懸命割り当てられた畑の草むしりや苗の植え付けを行っていました。これから植えた苗が大きくなって収穫できるようになったら喜びも大きくなっていくでしょうし、同時に入所者の方々との交流も積極的に行っていただければと願っております。

福祉室長 上脇田 勝教



「令和元年度 奄美和光園親子療養所訪問」を終えて

奄美和光園での令和初の親子療養所訪問が 8 月 8 日(木)、台風の影響で不安定な天気の中でしたが、無事に実施することができました。

鹿児島県主催で平成 14 年度から開催している事業ですが、ここ数年参加者数が低迷していました。しかし、今年度は 30 名

の定員に対し 32 名の申し込みがあり、当日キャンセル等で、結果「親子 8 組を含む 12 組 28 名」の参加となりました。

家族訴訟の件でマスコミに取り上げられたことで話題になったためか、非常に関心が高く、奄美和光園だけでなく、星塚敬愛園でも同じ傾向でした。

参加者内訳としては、未就学児2名、小学生10名、中学生2名、高校生1名、保護者9名、教師4名でした。

学校の先生方の参加も多く、人権教育の一環として、学校現場でもハンセン病問題についてぜひ取り組んでいただければと感じました。

以下、内容を項目で記載いたします。

●施設見学

- ・一般舎棟、洗濯棟、講堂（外観）、旧納骨堂等
- ・ふれあい和光塾の農園
- ＊施設見学後、現在の納骨堂へ拝礼
献花 参加者代表
奄美市在住小学4年生、同中学2年生

●交流

- ・加納園長御挨拶及びミニ講話
- ・交流会、体験談を聞く
（2グループにわかれ交流）

加納園長には、ハンセン病のことだけでなく、ハンセン病問題、奄美和光園の歴史と背景、地域との交流などもお話いただき、大変参考になりました。

「入所者の方と直接交流する」ことが一番の理解と普及啓発につながると思いますが、奄美和光園に限らず全国の入所者の方々の高齢化が進んでいます。交流をしてくださる方にもご負担をおかけしておりますが、今後も可能な範囲で御協力いただけますようお願いいたします。今回は大変ありが

とうございました。

参加者アンケートでは、「一般診療を受けたことがあり、なんとなく知ったつもりになっていたが、知らない事ばかりだった。」「ご本人のお話を聞いて胸がひきさかれる思いでした。これから差別や偏見のない社会を願います。」などの感想も聞かれ、ハンセン病問題を理解し、差別偏見、人権について考えるきっかけになったと考えます。

園長はじめ、和光園職員スタッフの皆様にも多大な御協力をいただきました。今後ともよろしくお願いいたします。

鹿児島県庁 くらし保健福祉部
健康増進課 宮ノ下 洋美





7 月 30 日、看護師を目指す高校生 8 名を迎え「ふれあい看護体験」が行われました。これは日本看護協会の恒例行事で、市民の為に保健医療施設が見学や看護体験、交流を行う貴重な機会です。私もうん十年前に某病院で体験し、懐かしい気持ちになりました。

私は 1～2 年生の 5 名を担当し、不自由者棟へ移動。居室など案内し、入所者 A さんへ声をかけました。A さんは学生に「良い仕事を選んだね。立派な優しい看護師さんになってね。皆が色々してくれるから自分は生活できる。感謝してる」と優しいトーンで話して下さり、案内する私が目頭が熱くなりました。ほかに耳鼻科処置の見学、血圧測定を体験し、七夕の短冊書きを入所者の皆さんと共に行いました。学生の感想によると、1 番印象深かったのはベッドから車椅子への移乗体験とのこと。患者体験により「その人の立場になって考えること」が自然にできたようです。

さて私が 1 番伝えたかったのは、「その人らしさを支える」ということ。その看護の本質が和光園にはあります。色々な場面で、「対症状や疾患だけではない、これまで生きてきた人生を大切に、これからの人生をその人らしく過ごせるように」を意識して話しましたが、伝わったでしょうか。学生の皆さん、来年も待ってますからね！

不自由者棟 看護師 光村 真弓





福祉体験学習



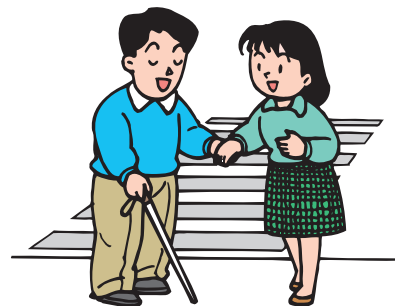
7月3日・4日の2日間、福祉体験学習で朝日中学3年生5名（男子3名、女子2名）が参加されました。体験の目的は、施設に入所されている方々との交流を通して理解を深め思いやりの心を育てることや、高齢者の方々に敬意を払い尊敬の念を持って接する姿勢を学ぶ機会とするものです。

1日目は看護課で2名と3名で分かれ病棟、不自由者棟で入所の方とコミュニケーションを図ったり、全盲・高齢者体験としてアイマスクや耳栓使用、車椅子の乗車体験や移動介助を行いました。学生は高齢者と接する機会は少なくはないということでしたが、何を話したら良いかわからず難しいという意見があったため、目線を合わせ大きな声でゆっくりとした口調で話すことをアドバイスし、職員の協力を得ながらコミュニケーションを図りました。学生は終始緊張した様子でしたが、職員の入所の方に対する接し方を間近で見て高齢者への接し方を学ぶことができたという意見がありました。全盲・高齢者体験では、アイマスク着用しての移動に恐怖を覚え介助者の声かけが重要であること、耳栓使用して

のコミュニケーションでは聞こえ辛さを実感し距離感や声量に注意が必要ということに気づくことができました。

2日目は園外ショッピングへ同行し、買い物支援を体験しました。入所者とコミュニケーションを図ったり、全盲・高齢者体験を通し、高齢者への理解や思いやりをもった姿勢で接することに繋がる良い体験になったのではないかと考えます。学生の中には医療系の職業に就くことを考えている人もいました。これからも多くの体験を通し多方面で活躍していただきたいと思います。

不自由者棟 看護師 篤 真奈美



新人紹介



病棟 看護師 久永 美紀 (ひさなが みき)

令和元年 5 月 7 日より病棟勤務しています。久永美紀と申します。実は、6 年前までもこの奄美和光園で看護師として働いていました。再びこの場に戻ってくることが出来、とても嬉しく感謝しています。和光園の皆さまが自分らしく過ごしていけるようなお手伝い出来るように私も私らしい看護で日々自己研鑽を重ねていきたいと思ひます。よろしくお願いしします。

不自由者棟 看護師 肥後 加奈美 (ひご かなみ)

6 月に不自由者棟へ入職いたしました肥後加奈美と申します。出身は奄美の笠利町ですが今は名瀬に住んでいます。入職して 1 ヶ月になりますが、入所者への優しい声かけや一人ひとりに寄り添った看護や介護、療養のサポートを実践されている職員の姿に感動しました。私も一日も早く入所者の皆様の個性を理解し、安心した生活を送っていただけるよう励みたいと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。趣味は音楽鑑賞です。楽しい音楽イベントがあればお誘いください。



会計班 会計係 田畑 まなみ (たばた まなみ)

6 月 1 日より会計係にて勤務させて頂くことになりました田畑まなみと申します。小 3、小 1、1 歳の子供がいます。子供に負けたくないと思地になって毎日賑やかに過ごしています。ご迷惑をお掛けする事があると思ひますが、一日でも早く仕事を覚え、皆様のお役に立てるよう頑張っていきたいと思ひています。どうぞ宜しくお願いいたします。

不自由者棟 看護師 鈴倉 佳世 (すずくら かよ)

7 月に不自由者棟へ入職いたしました鈴倉佳世と申します。出身は奄美市名瀬です。地元の看護学校を卒業して関東にいましたが、数年ぶりに地元奄美へ帰ってきました。

看護師としては、今年 5 年目で約半年程休職期間もあったため、まだまだ経験不足ですが、入所者の皆さんが日々安心して、その人らしい生活を送れるように頑張っていきますので、宜しくお願い致します。



令和元年度 第1回 消防訓練

令和元年度第1回消防訓練を7月11日13時30分から実施しました。

出火想定場所は病棟の洗濯室でした。病棟では第1発見者と応援者による連絡・初期消火が適切に行われていました。その後、師長の指示により、模擬入所者の避難もス

ムーズに完了しました。

私自身、訓練を実施することになって初めて気づくことも多く、日ごろの防災意識を高める必要があると感じました。

庶務班長 清田 和博



学 術 活 動

所属する学会のうち、毎年いくつかの学術集会に参加し、1～2回は発表も行います。2019年度初の学会発表は、7月7日に開催された第184回日本皮膚科学会鹿児島地方会（於：鹿児島大学鶴稜会館）となりました。2週間後に「おぎおんさあ」を控え、鹿児島市内には神輿が飾られ、鹿児島中央駅の観覧車は、涼しげな青色に輝いていました。

さて「学会に参加する」というと、皆さんはどんなイメージを思い浮かべますか？

「スーツを着て、難しい症例の発表をするのでしょうか？」「専門用語とか英語とか飛び交っていそう?!」「偉い先生や座長の先生から質問攻めにあう(泣)」

もちろん、そのような学会もありますが、鹿児島県内の皮膚科医が集まる地方会はとてもアットホームな学術集会で、「私は〇〇と診断したのですが、この診断で矛盾はありませんか？」や、「私としては珍しい症例と思うのですが、同様な症例を診察されたことのある先生はい

らっしゃいますか？」のような、多くの先生方に相談できる場でもあります。

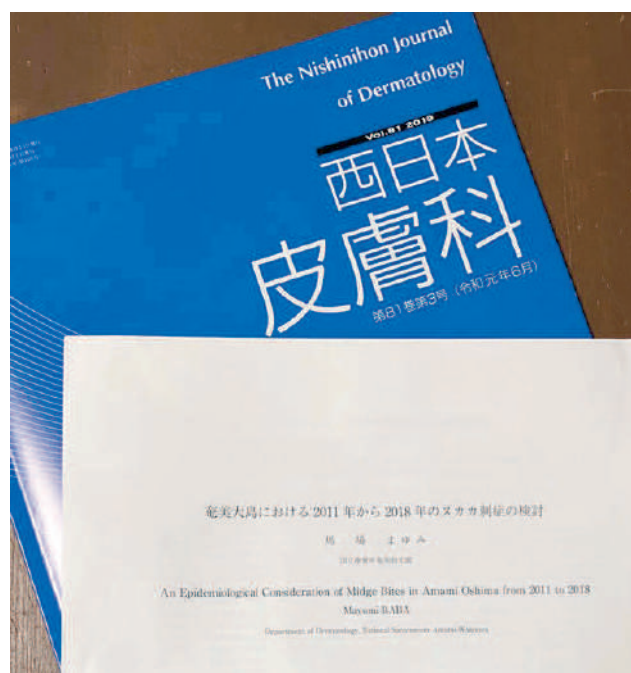
今回は、「**増殖性タール・ピッチ皮膚症の1例**（心の声：過去の疾患かと思っていたら、今でも経験することがあってビックリ!）」と、「**足底に生じた pyogenic granuloma の1例**（心の声：足底にはあまり発生しないから、無色素性悪性黒色腫かと思ってドキドキした!）」の2演題を発表しました。発表内容は大きく否定されることもなく無事に発表は終わりましたが、ここで完遂ではありません。発表後の質疑内容を検討し、論文にして投稿した場合、採用されるか否かを考えます。

自分へのノルマとして、「年1回は発表を、2～3年に1つは論文を」を目標に取り組んでおり、2017年7月に学会発表した内容をバージョンアップさせたものが、今年6月に「**奄美大島における2011年から2018年のヌカカ刺症の検討**（西日本皮膚科第81巻第3号）」という論文となりました。ヌカカ＝エッチ虫に刺された患者さんの受診時期や人数、治療内容などをまとめた論文です。最も大変だったのはヌカカの採集で、自ら囋となり海岸を行ったり来たり。刺される前に体長わずか2mmの虫を潰さずに捕獲するという、危険極まりな

い任務でした(笑)。

今後も、日々の診療に紛れている「ちょっと珍しい症例」を取りこぼさず、療養所の医師でも行うことができる発表や論文作成を続けていきたいと思えます。この場をお借りして、学会発表や論文作成に快く同意してくださった患者の皆様に深謝いたします。

副園長 馬場 まゆみ





2年連続 準優勝!!



皆様こんにちは☆ 今年も上方地区バレーボール大会へ、福永監督率いる「和光園チーム」として参加して参りました!! 予選では、鳩浜地区・浦上地区と対戦し1位上がりで準決勝へ進みました。準決勝の対戦相手の有屋地区とは3セットの接戦を経て、決勝の舞台へ。そして決勝の対戦相手は、去年のリベンジを図るべく仲勝地区との対戦になりました。

1セット目…16-21、2セット目…21-19、3セット目…15-21と惜しくも敗れてしまいましたが、去年は(2-0)ストレート負けだったのが、今年は(2-1)フルセットで惜敗…。負けはしましたが、和光園チームの成長を強く感じました。そして何はともあれ、チームメイトの好プレー・

珍プレーが多く見られた事がとても嬉しかったです。

日頃、職場で働く仲間がバレーというスポーツを通し、短期間ではありましたが同じ目標に向かい笑いころげ、支え合った仲間を誇りに思います。

これも入所者の皆さんからの「頑張っておいでよ」などのお言葉や職場・家族の協力のもと実現できた事です。本当に心から感謝申し上げます。

来年こそは!! と欲が出てしまいそうですが、「全員で楽しくバレー」という気持ちを忘れず挑戦して行きたいと思います!!!

治療棟 介護員 岩元 由衣



新しい元号令和になり、和光園にて最初のハブを捕獲しました。

捕獲人は福祉室の野生人A氏です。

5月15日(水) 午後10時前、宿直の巡回中に発見。すぐに宿直室にハブ捕り棒をとりに帰り、現場に戻り捕獲したとのことです。ハブ箱への収納まで車の運転席の窓をあけ、ハブ捕り棒にハブを捕らえたまま運んだそうです。次の日に事情を聞いたところ、あまりにも重く野生人といえどもとても疲れた様子でした。

“皆様も、くれぐれもハブにはご用心”

捕ったぞ〜



福祉室 MSW 有川 清四郎

<<あまみ鰻遊記>>

みなさん、奄美の鰻(うなぎ)についてご存知でしょうか。想像するウナギは、店やスーパーで売っているニホンウナギという種類だと思いますが、奄美にはオオウナギという種類のウナギが生息しています。オオウナギは琉球列島や小笠原に多く生息し、大型のものは、全長2m・体重20kgに達するといわれます。15年ぶりに和光園に帰ってきたこともあって、子供の頃ウナギ釣りをしていたことを思い出し、近くの仲勝川へウナギ釣りに出かけました。

梅雨真っ只中の6月でしたが、日が落ちた夜8時頃から釣り開始です。餌を付け1投目から、ぐ・ぐ・ぐう!!!!と強烈な引きが釣竿を大きく曲げますが、あっという間に糸をプツン!と切られてしまいます。この仕掛けでは歯が立たないと大物仕掛けで再挑戦です!同じポイントに投入すると、強烈な引きが一気に竿先を川へ引き込みます。竿を必死に握り、糸をガンガンに巻き取ると暗闇の川面に巨大ウナギの影が!規格外の大きさで取り込みに苦戦していたところ救世主(通りすがりの人)登場です。家から脚立や袋を持ち出して、暗闇

の中「ハブじゃないだろうね?」と恐る恐る警戒しながら捕獲すると、川の主のような体長1.4m / 体重7.5kgのオオウナギでした。

近くの川にこんな巨大うなぎ!今更ながら、度肝を抜かれた奄美の大自然でした。釣ったウナギは、蒲焼きで美味しくいただきました。みなさんもウナギ釣りに出かけてみませんか。

研究検査科

臨床検査技師長 畠 伸策



NST News Letter

No.10

日々の食事に楽しみを!

栄養サポートチーム(NST)では、多職種で協力し入所者の皆さんの“食”を支えています。昨年度、言語聴覚士採用に加え、リハビリテーション室の増員がありました。“食”のリハビリテーションが始まり、嚥下食の改善を行いました。“食”の環境調整、食事姿勢、身体を支えるための筋肉の増強など、チームとしての関わりはより深くなりました。

フレイルという言葉をご存じでしょうか?年齢に伴って、筋肉や心身の活力が低下した状態です。早く気づくこと、栄養や運動で十分に予防や回復が可能だと言われています。

そこで、栄養・給食係では摂取量の増加を目標に、昨年度より「日々の食事に楽しみを!」と「その人らしさを大切に」の二つを念頭に置き、色彩豊かで季節感

のあるお食事の提供に努めています。島内外の旬の食材を用いた変化のある献立を作成し、まずは、“食”へ興味を持っていただき、食事時間が待ち遠しいと思っていただけるよう工夫をしています。

お配りする献立表は季節の挿絵や食材についての説明文を載せるようにしました。表記の例としては、くだものではなく、マンゴーやさくらんぼなど食品名です。少量しか摂れないからこそ、質にもとことんこだわりました。宮崎産マンゴー、さくらんぼの佐藤錦、中でもいちごは“さがほのか”の「覇名呼・はなこ」を使用し、酸味の少ない大粒いちごは大好評でした。

また、6月からは茶葉の検討も始めました。ご高齢の皆様にとって水分補給はとても大切なことですが、喉の渇きに気づきにくいことで摂取を忘れてしまうことがあります。そこで、「飲みたい!」と思って頂けるお茶の提供により、飲水量の増加を目指しました。アーケードのお茶屋に出向き、香り高く予算に合う茶葉として特選知覧茶を選びました。10月からはお米の銘柄も検討し伊佐米を取り入れる予定です。お茶やお米の質の向上は摂取量増加だけでなく、どなたにも平等に食糧費を還元できると考えます。

地元の菓子工房から可愛らしい商品名の和菓子や島タルト、ごちそうプリンを取り寄せています。目先の変わったデザートに入所者

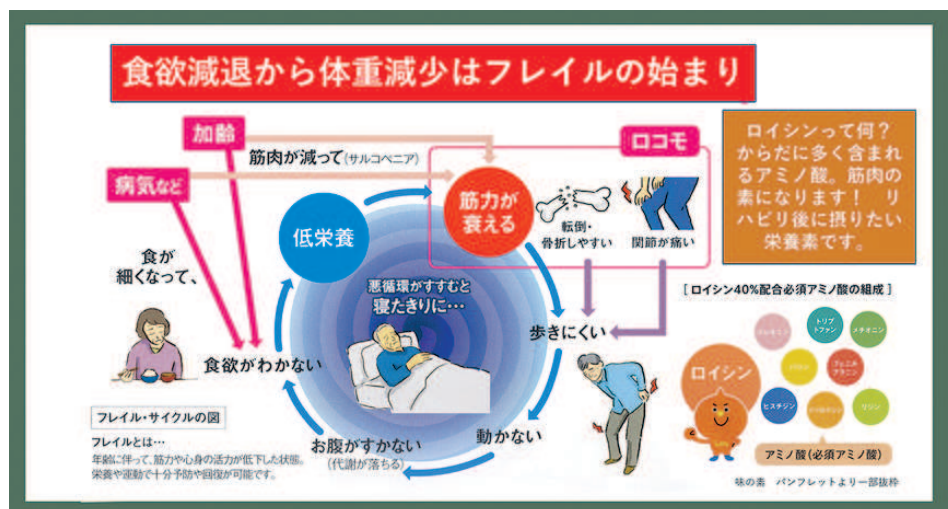
の皆さんは目を細められ、「なんのお祝い?」との問いに、「お祝いじゃないのです、毎日のお食事を楽しんでもらいたくて。」とお返事する際に嬉しくなるものです。

ところで、前号ではサルコペニア予防に栄養補助食品の活用が話題となっていました。栄養・給食係では、たんぱく質8グラム(卵1.3個分)を含む少量の栄養剤を取り扱っています。リハビリ後の摂取が良いとされていますので、ご興味を持たれたら担当の先生にご相談ください。

最後に新しい取り組みとして、調理師によるお食事時間の訪問を実施しています。入所者の皆さんの生の声は、提供した食事の問題点の把握、速やかな業務改善に繋がると考えます。どうぞ、調理師へお声掛けください。調理師5名、総勢8名の小さな部署ですが、一丸となり、喜んでいただけるお食事の提供に努めますので、よろしくお願いいたします。

栄養係長(管理栄養士・認知症ケア指導管理士・健康予防管理専門士)

青堀 尚子



令和元年度 診療統計

	外来診療					再掲		入院診療		
	初診(人)	再診(人)	合計(人)	1日平均 (人)	診療実日数 (日)	紫外線療法 (件)	手術/生検 (件)	入院(人)	退院(人)	延患者数 (人)
4月	168	289	457	38.1	12	74	8	0	0	0
5月	177	221	398	36.2	11	63	9	0	0	0
6月	191	263	454	37.8	12	68	10	0	0	0
7月	170	282	452	34.8	13	69	3	0	0	0
8月	154	256	410	34.2	12	62	5	0	0	0

- ・入院制度開始当初と比べ、軽症のうちに受診する患者が増え、入院治療を必要とする患者が少ない。これは当園の皮膚科が広く認知され、受診しやすい病院となっている良い傾向である。

人事異動

(令和元年 5 月 1 日 ~ 令和元年 8 月 31 日)

R 1. 5. 7	久永 美紀	看護師	採用
R 1. 6. 1	田畑 まなみ	会計係	採用
	肥後 加奈美	看護師	採用
R 1. 7. 22	鈴倉 佳代	看護師	採用

和光園日誌

(令和元年 5 月 1 日 ~ 令和元年 8 月 31 日)

R 1. 5. 9	園外ショッピング (ビッグⅡ)
5.23	園外ショッピング (タイヨー)
5.25	ふれあい和光塾開講式
6. 6	園外ショッピング (ビッグⅡ)
6.20	園外ショッピング (タイヨー)
6.27	ミニ運動会
7. 3	朝日中学校福祉体験
7. 4	園外ショッピング (ビッグⅡ)
7. 9	バスレクリエーション (大浜海浜公園)
7.11	消防訓練
7.18	園外ショッピング (タイヨー)
7.25	夏祭り
7.31	ふれあい看護体験
8. 2~	七夕会
8. 8	親子療養所訪問
8.24	有屋町内会 八月踊り

編集後記

高校野球ファンの私にとって、夏といえば“夏の甲子園”です。今年もまた暑い熱い戦いが繰り広げられているのを、テレビの前で観戦しました。高校野球の魅力は、若者達が Teppen 賭けて泥まみれになりボールに食らいつくところと、仲間と追いかけた夢に悔し涙を流す球児、勝利し満面の笑顔の球児、またそれを応援するアルプススタンドの応援団。そんな頑張る姿勢に、こちらが元気や勇気、頑張る力を貰えるところです。そんな興奮冷めやらぬ中、熱戦は閉幕しました。また来年きっとテレビの前で釘付けになり観戦することでしょう。

編集委員 藤田 加穂子